



【^{りよくしよくぎょうかいがん}緑色凝灰岩^{かぶといし おぎのそう}】 甲石 荻野層
 国道49号線沿いにあるこの大きな露頭は、凝灰岩という岩石でできています。今からおよそ2000万年前の海底火山の活動で噴出した火山灰が、厚く堆積してつくられた地層です。緑色をしているので緑色凝灰岩といわれ、西会津町のあちこちでこの地層が見られることは、大昔、この地域が海の底であったことを教えてくれます。

【^{さがん でいがん つかさ}砂岩と泥岩の積み重なった地層^{やしき つなざわそう}】 屋敷 縄沢層

砂と泥が交互に堆積しているために地層の境目がはっきりと見えます。砂は海などの浅い所や流れの速い所に堆積し、泥は深い所や流れの遅い所に堆積するといわれています。このような砂と泥の積み重なった地層は、どのように堆積したのでしょうか。



■ 地層の名前 ■

地層の名前は、いったいどのようにしてつけられるのでしょうか。野外調査を何回もくりかえして地層を観察し、地層の広がりや含まれる化石、岩石の違いなどからその地層が模式的に分布する土地の地名から、地層の名前がつけられます。地層の名前は、研究者によって変わることがあります。